



- ◇「札幌の成果と課題」を踏まえ、以下の3点を重視して学校での学びを改善していく必要がある。
- 子どもが、**学ぶことの意義や楽しさ**を感じ取り、**自ら学び続けようとする意欲**をもつこと
- 子どもが、自ら考えたり表現したりするなどの**多様な学びを経験し、思考力・判断力・表現力等を身に付けること**
- 子どもが、学び続けるための**基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、新たな学びに自信をもって挑戦**していけるようになること

◇学校での学びの質を高め、家庭と一体となって「学ぶ力」を育むことを目指して「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プラン」を実施する。



平成31(2019)年度 さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン

「札幌市教育振興基本計画」(H26年度～)に位置付けて推進

◆分かる・できる・楽しい授業づくりの充実

「子どもが自ら考え、判断し、表現する学習活動」の充実

- 自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する**課題探究的な学習**を取り入れた授業の工夫改善を図る。
- *「6つのセルフチェック」の活用による授業づくりの充実
- *小学校5・6年生算数における少人数指導「算数にーごープロジェクト」の実施

学ぶ意欲の向上

- 知識の理解の質を高め、**資質・能力を育む**
- 「**主体的・対話的で深い学び**」
- ***言語活動や体験的な活動等の充実**

「自分への自信をもたせるきめ細かい指導」の充実

- 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図り、子どもが分かる・できる喜びを実感できるよう、**個に応じた指導の充実**を図る。
- *生きて働く知識・技能の習得に向け、知識・技能の活用場面に位置付けた授業の充実
- *一人一人のよさや伸びを認める指導と評価の一層の充実

5つのポイント

- 1 難しいことにも挑戦する意欲を伸ばします。
- 2 「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」を身に付けられるようにします。
- 3 意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。
- 4 自分の「伸び」を実感して、新たな目標をもてるようにします。
- 5 生活を自らコントロールする力を育みます。

具体的な改善策について教育委員会が支援

各学校が「学ぶ力」育成プログラムを改訂し実行

○各学校が、自校の児童生徒の「学ぶ力」の実現状況を踏まえて、指導方法等の**課題を明確化し、改善に向けて作成したプログラムの改訂、実行**に取り組む。(教育課程等への位置付け、指導方法の改善など)

教員の指導力向上に向けた施策

札幌市教育課程編成の手引の活用

○新学習指導要領の趣旨を踏まえた**授業改善の推進**

- ・課題探究的な学習の指導展開例等を活用し、指導方法の改善を支援

教育課程研究協議会・説明会等

○分かる・できる・楽しい授業の**在り方を協議**

○新学習指導要領の実施を見据えた教育課程の**在り方について協議**

- ・新学習指導要領に関する情報や実践事例の共有

札幌市教育研究推進事業

○分かる・できる・楽しい授業に関する**研究の推進**

○新学習指導要領の実施に向けた**研究の推進**

- ・教職員の協働による授業づくりに関する実践的研究の推進
- ・研究・研修の成果の発信
- ・校内研修支援

札幌市教育センターにおける教員研修

○授業づくりに関する**研修の充実**

- ・教職経験に応じた実効性の高い研修の充実
- ・指導資料等の活用の推進

◆校種間・学校間連携の充実～小中一貫した教育の視点から連続性のある教育を推進～

- 指導内容の**連続性**や**系統性**を重視した教育課程の工夫改善
- 授業交流や合同研修会、「学ぶ力」育成に向けた取組の成果と課題の共有
- 学ぶ意欲や自己肯定感の向上に向けた**異校種体験や交流**

◆学校、家庭が一体となった「習慣づくり」「環境づくり」の推進

学校・家庭・地域との連携強化

- 家庭、地域への**情報発信の充実**
- ※「**社会に開かれた教育課程**」の理念に基づき、家庭や地域との共通理解のもとで「学ぶ力」の育成に向けた取組を推進
 - ・リーフレット**「さっぽろっ子『学び』のススメ**」の配布と活用
 - ・**学校、家庭が一体となった子どもへの働きかけ等について具体化し、各学校の「学ぶ力」育成プログラムに位置付ける。**
 - ・各学校の取組状況についての情報発信の充実
 - ・札幌市PTA協議会をはじめとする関係機関との連携



校長会との連携強化

- 双方向**による「学ぶ力」の育成
- ※校長会との多様な機会における双方向の連携を強化
 - ・各区の研修会等への**指導主事の派遣**
 - ・各学校の研修会等の充実

(その他)
ICTの活用、学生ボランティアの活用などの環境整備

改善

検証改善

検証改善サイクルの確立

評価

子どもの自己評価を生かした「学ぶ力」の評価と指導の改善 ～20の指標～

○教育施策や教育指導の改善に反映するため、**札幌市全体の共通指標を設定**し、子どもの学習状況等を把握するとともに、分析する。

子どもの学力の現状と「札幌の成果と課題」

国際的な学力調査から明らかとなっている日本の子どもの学力状況も踏まえつつ、全国学力・学習状況調査結果や札幌市学習実現状況調査等の各種調査結果を総合的に分析し、札幌市の子ども「学ぶ力」について、「**札幌の成果と課題**」をまとめました。

■国際比較による日本の子どもの学力■

TIMSS2015

国際数学・理科教育動向調査

小4、中2が対象
算数・数学、理科の
知識・技能の習得状況

【小学校】算数5位(49か国中)、理科3位(47か国中)
【中学校】数学5位(39か国中)、理科2位(39か国中)

「比較できる範囲で最も良好な結果であり、国際的にも引き続き上位に位置している。習熟度の高い児童生徒の割合は、前回調査に比べ増加しているが、他の上位国・地域と比べると、その割合は低い傾向。」
「算数・数学、理科について楽しいと思う児童生徒の割合が増加したり、『日常生活に役立つ』『将来、自分が望む仕事につくために、良い成績をとる必要がある』という生徒の割合が増加。」(文部科学省資料より抜粋)

PISA

OECD生徒の
学習到達度調査

15歳が対象。義務教育修了段階で身に付けた知識や技能を実生活の様々な場面でどの程度活用できるか。

■数学的リテラシー

様々な文脈の中で数学的に定式化し、数学を活用し、解釈する個人の能力

2012年 7位(65か国・地域中) 2015年 5位(72か国・地域中)

■科学的リテラシー

科学的な考えを持ち、科学に関連する諸問題に関与する能力

2012年 4位(65か国・地域中) 2015年 2位(72か国・地域中)

■読解力

自らの目標を達成し、知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組むこと

2012年 4位(65か国・地域中) 2015年 8位(72か国・地域中)

○各分野とも、日本は引き続き平均得点が高い上位グループに位置。

○自分の将来に理科の学習が役に立つと感じている生徒の割合が2006年に比べ増加。

「読解力については、コンピュータ使用型調査に対する生徒の戸惑いや、次期学習指導要領に向けた検討過程において指摘された課題が本調査で明らかになった。」(文部科学省資料より抜粋)

■札幌の子どもの学力■

平成30年度全国学力・学習状況調査

小6、中3が対象(H30年4月実施)
国語及び算数・数学の「知識に関する問題(A問題)」、
「活用に関する問題(B問題)」、理科

札幌市学習実現状況調査

小5、中2が対象(H30年2月実施)
小5では社会、中2では社会・英語について「基礎に関する問題」と
「応用に関する問題」

※「下回る」は、全国の平均正答率と比較して3.1ポイント以上、下回る状況。「上回る」は、全国の平均正答率と比較して3.1ポイント以上、上回る状況。

- ◆国語では「目的や意図に応じて内容を的確に捉え、中心を明確にして自分の考えをまとめること」、算数・数学では「判断の理由や解決の方法を考察し、数学的に表現すること」、理科では「観察・実験の結果を基に分析、解釈して考察し、自然の事物・現象について、より妥当な考えを見いだすこと」など、身に付けた知識・技能を活用することについて、小中学校ともに課題。
- ◆社会・英語では、目的や状況に応じて、考えたことを表現することについて、小中学校ともに課題。

【小学校】⇒国語、算数の問題A、B、理科のいずれも、
全国平均正答率と「ほぼ同程度」
【中学校】⇒国語、数学の問題A、B、理科いずれも、
全国平均正答率と「ほぼ同程度」

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

【小学校】社会…期待される正答率(設定通過率)と「ほぼ同程度」
【中学校】社会…期待される正答率(設定通過率)と「ほぼ同程度」
英語…期待される正答率(設定通過率)を上回っている。

■札幌の子ども学習習慣と学習意欲■

平成30年度全国学力・学習状況調査

■自分で計画を立てて勉強している子どもの割合は、全国と比べやや低い状況ではあるが、**上昇傾向**にある。※()内は全国平均

H20年度:小52.2%(52.0%) 中37.4%(34.2%)

H30年度:小66.4%(67.8%) 中50.0%(52.1%)

■自分にはよいところがあると思う子どもの割合は、全国と同様に**上昇傾向**にある。※()内は全国平均

H19年度:小70.7%(71.5%) 中62.5%(60.5%)

H30年度:小83.1%(84.0%) 中79.6%(78.8%)

■将来の夢や目標をもっている子どもの割合は、全国と比べやや低い状況ではあるが、**改善の傾向**は見られている。※()内は全国平均

H19年度:小81.5%(83.7%) 中69.2%(70.7%)

H30年度:小83.2%(85.1%) 中70.3%(72.4%)

札幌市児童生徒の実態に関する基礎調査

■H29年度の調査では、家庭での学習時間について、「ほとんどしない」と回答した割合は、小5では今回の調査が最も低くなっている。前回調査(H26)と比べて、中2と高2では2時間以上学習すると回答した割合は減少し、「ほとんどしない」と回答した割合は増加しており、学習時間が減少していることがうかがえる。

◆家庭での学習習慣については、意欲を高める関わりを一層行うとともに、生活習慣・運動習慣等と併せて改善を図ることが課題。

★札幌の成果と課題★

- 知識・技能は概ね身に付いているが、身に付けた知識・技能を活用して考えたり、考えたことを表現したりすることについては課題。
- 自ら学ぼうとする学習意欲や自己肯定感に向上の傾向が見られており、一層意欲を高めることにより、学習習慣の確立を図ることが課題。

学習などについてのアンケート(札幌市全体の共通指標)の結果

「学習などについてのアンケート」は、平成25年度から札幌市全体の共通指標として毎年実施してきたものです。下のグラフの通り、調査実施初年度と平成30年度の結果を比較してみると、ほとんどの設問において肯定的な回答の割合が高くなっていることが分かります。

小中学校ともに、「意見の違う人とも、よく話し合おうとしている」「意見を発言する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている」の項目において、肯定的な回答の増加が顕著に見られるなど、自ら課題をもち、互いに考えを伝え合いながら思考・判断し、課題を解決しようとする子どもが増えてきていることが分かります。これは、札幌市において課題探究的な学習を推進し、言語活動の充実を図るなどの「学ぶ力」育成に向けた授業改善が進められている成果と捉えています。

また、「分からないことはそのままにせず、分かるまで努力するようにしている」「授業中、友達や先生の説明、意見を終わりまで聞いている」等の項目において、肯定的な回答の割合が大きく増加しており、粘り強く学ぼうとする札幌の子どもの姿が浮かび上がってきます。

「普段から計画を立てて勉強している」「授業中、自分の意見を進んで発言している」と回答する割合は高くなってきてはいますが、他の項目に比べると低い傾向が続いています。また、小学校と中学校の結果を比較してみると、中学校において肯定的な回答の割合が大きく下がっていることが分かります。

子どもが自ら進んで計画を立てて取り組めるようにする学習習慣づくりや、授業の中で自らの考えを表現する場を積極的に設けていくことは、特に中学校において今後の課題と捉えられます。課題の改善に向け、小学校で身に付けた力を中学校でさらに伸ばせるよう、「学ぶ力」育成の5つのポイントや課題探究的な学習の6つのセルフチェックの視点を活用し、言語活動の充実を一層図るとともに、学校以外の場面においても、子どもが学校で学んだことを生かして自ら学ぼうとする意欲が高まるような授業へと改善を進めることが重要です。

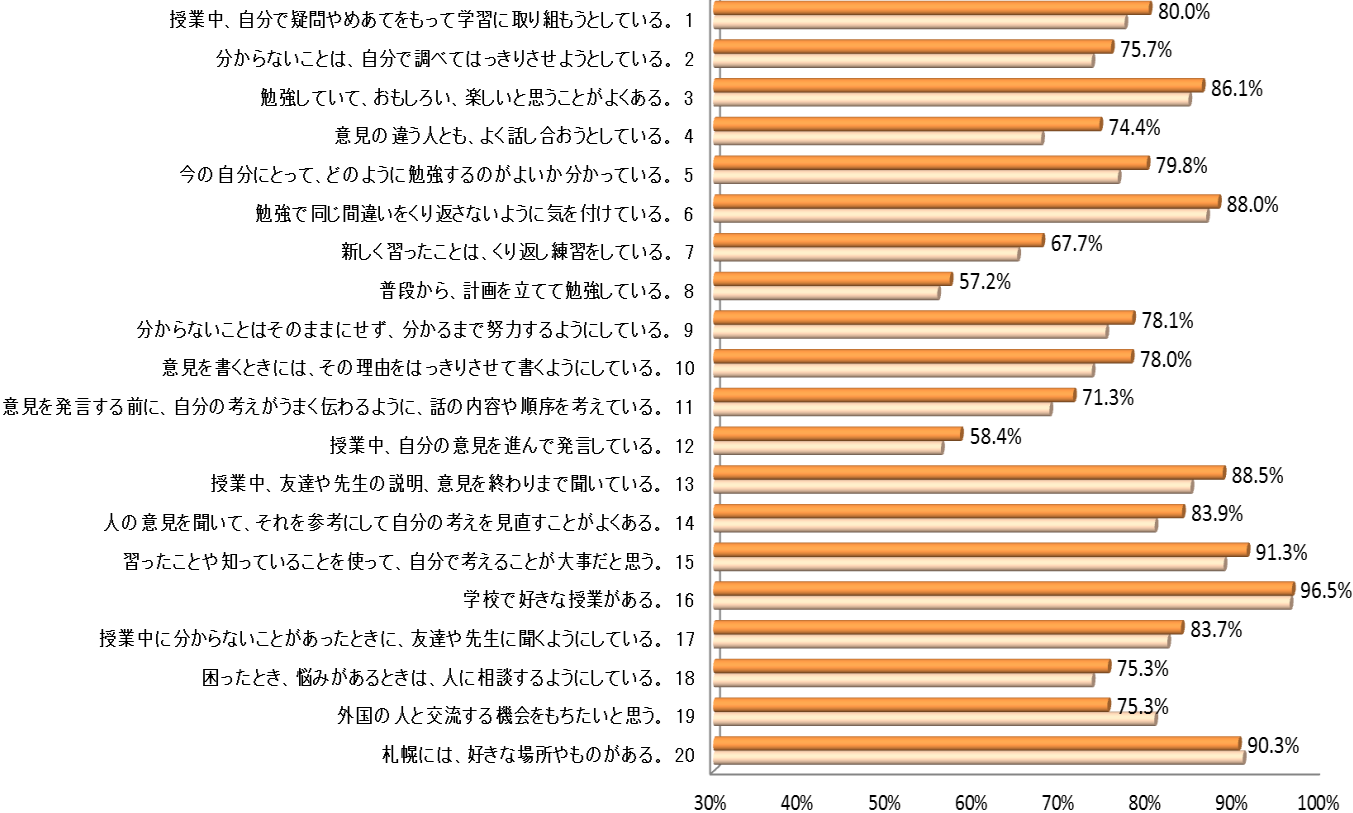
併せて、学校と家庭が連携して学習習慣づくりを進めるため、学校の「学ぶ力」育成の重点や具体的な取組について、家庭・地域への情報提供を充実させるなど、「まほうのかいわ」が広がるような働きかけの工夫が重要と言えます。

成果

課題

小学校

■平成30年度 ■平成25年度



中学校

■平成30年度 ■平成25年度

